

企画・発行 おおいた障がい者芸術文化支援センター
(公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団)



令和4年度 おおいた障がい者芸術文化支援センター 事業報告書

ART SUPPORT

ART

はじめに

当支援センターは、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団内に開設され、まる3年が経ちました。開設以来、当センターの使命である障がいのある人の芸術文化活動の定着と発表の機会などの拡充を図るため、活動を支援する仕組みの構築に取り組んでいます。令和4年度も障がいのある方々が地域の多様な場で芸術文化活動に取り組めるよう、様々な機関や人材同士をつなぎ、創造活動などの環境づくりや支援体制整備を進めてきました。

センターに寄せられる相談の内容は、その多くが、「創造」「発表」などに関するものです。支援センターでは、「創造」への対応として、自宅や施設等で創作活動の機会が十分に持てず活動の場を必要としている人に対して「オープンアトリエ」を中心とした事業を展開し、利用施設で創作活動が体験できるように「アウトリーチ」を実施したり、居住地で創作活動の体験ができるよう「地域開催」を企画したりしました。令和4年度は日田市、豊後大野市、佐伯市の3市で音楽やダンス、美術などのワークショップを実施し、障がいのある人となない人が創作活動を通じて交流を行い、地域での芸術文化活動を楽しむ姿が見られました。

また「発表」の機会の場合として大分県立美術館OPAMを会場に、県内のアーティスト22組の作品161点を展示する企画展を行いました。その作品展のタイトルを「Junction art(ジャンクションアート)」と題し、美術館を訪れる方々がアーティストの作品と接点を持ち、アーティストが創造した「可能性の芸術」や「自然のままの芸術」

に触れることで、障がいのある方々の芸術文化活動への理解が深まることを期待して企画しました。更にこの企画展には、佐賀県にある医療法人清明会障害福祉サービス事業所PICFA(ピクファ)所属の20名のアーティストの方々の作品も併せて展示を行い、斬新でレベルの高い作品や企業等とのコラボ作品について、その先進的な取り組みを紹介しました。

この他、障がいのあるアーティストを県内の小学校に派遣し、交流を図ることで障がい者理解を進めるワークショップや、障がいのある方々の芸術文化活動を支援する人材育成のためのセミナーを企画し、障がいのある方々が、芸術文化活動に参加しやすい社会環境の整備にも努めています。

しかしながら、環境や体制の整備はまだ道半ばです。一年一年目標設定と振り返りを繰り返し、県下の障がいのある方もない方も芸術文化活動を通じて共に交流する機会を創出し、障がいのある方々の社会参加を促進していきたいと考えています。令和5年度も、県内外の皆様のご支援を賜りながらセンターの使命を果たしていきたいと思っていますので、これまでと同様どうぞよろしくお願いいたします。

結びに、おおいた障がい者芸術文化支援センターの事業運営にあたり、格別のご支援とご協力を賜りました関係者各位に心から感謝を申し上げます。

おおいた障がい者
芸術文化支援センター

おおいた障がい者 芸術文化支援センター

県内に居住する障がいのある人の芸術文化活動を支援することを目的に、令和元年11月に大分県が「おおいた障がい者芸術文化支援センター」を設立しました。障がいのある人自身やそのご家族、支援者などの相談内容に応じて、障がいのある人が芸術文化活動を楽しむことができる環境や体制を整え、様々な機関や人をつなげてサポートします。大分県において、障がいのある人たちの芸術文化活動の輪が広がり、誰もが自由に表現を楽しみ、生き生きと自分らしく生活できることを目指します。

1 相談支援

P 03 - 05

個性や障がい特性に合わせた制作環境づくりや、イベントの企画・運営についてなど、障がいのある人の表現活動に関する様々な相談を受け付けます。

2 創造機会の提供

P 06 - 10

オープンアトリエ in コトブキヤ駅南
アウトリーチ / オープンアトリエ地域開催

障がいのある人が地域の人々と一緒に表現活動を楽しめる場を提供します。

3 発表機会の提供

P 11 - 15

支援センター企画展 / gallery MAPO
創作演劇&ダンスワークショップ in OPAM

展覧会や舞台公演など、障がいのある人の表現活動を発表する場を提供します。

4 鑑賞機会の提供

P 16

鑑賞支援つき日本舞踊

様々な団体と連携し、障がいのある人が気軽に美術館や劇場、ホールを訪れることができる環境を整えます。

5 人材育成

P 17 - 18

障がいのある人の創作活動支援を
考えるセミナー1・2

セミナーなどを開催して、障がいのある人の表現を活かすための知識を学ぶ機会を設けます。活動を企画・運営できる人材を育成し、支援の輪を広げます。

6 交流事業

P 19

アートを感じるワークショップ

障がいのある作家が講師となり、県内の学校などでワークショップを行います。子ども達との交流を通じて、表現活動への関心を高めます。

7 情報収集・情報発信

P 20 - 21

調査・発掘 / 情報発信

障がいのある人の芸術文化活動に関する調査を行い、新たな人材や作品を発掘します。ホームページやSNSを通じて、県内で活躍する障がいのある作家の紹介や、県内外のアートイベントの情報発信を行います。

1 相談支援

主に障がいのある人ご自身や障がい福祉関係者、障がいのある人のご家族から、創造機会や発表機会に関する相談が寄せられました。また、文化団体や企業からの提案を受け、センターが繋ぎ役となることで、作品発表の機会をつくることも出来ました。県庁所在地である大分市内からの相談が最も多く、まだ相談を受け付けていない市町村もあります。支援センターの活動や存在の周知に今後も力を入れていく必要があると感じました。

◆ 令和4年度相談実績

令和4年4月～令和5年2月…相談件数 188件、対応回数 274回

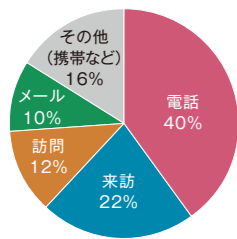
◆ 相談窓口

相談方法 / 電話、来訪、訪問、メール、FAXなど

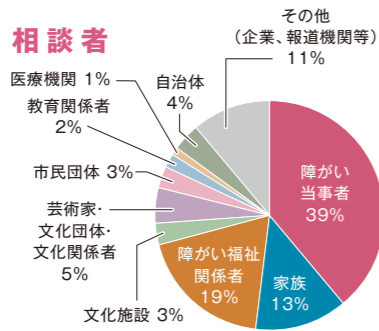
受付時間 / 9:00～17:00(土・日曜、祝日等を除く)

◆ 相談件数の内訳

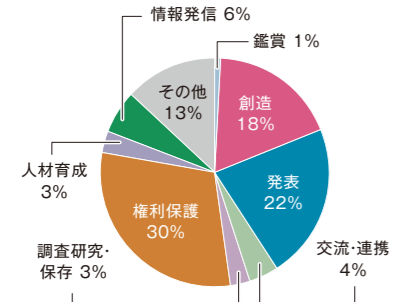
相談方法



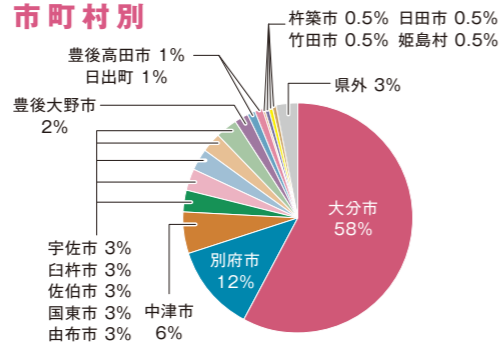
相談者



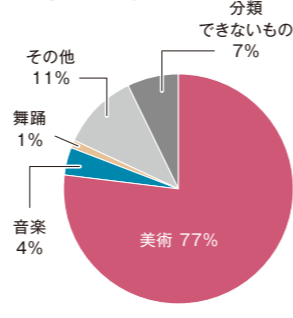
相談種別



市町村別

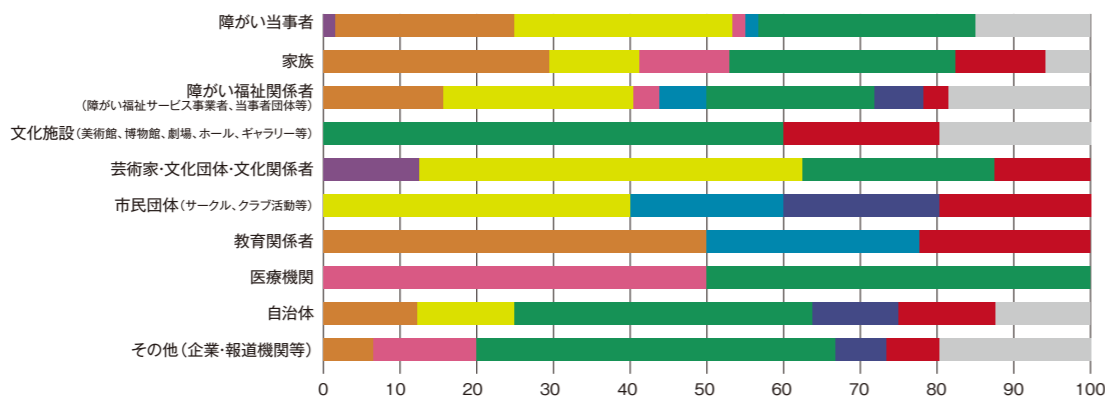


相談分野



相談種別内訳

- 鑑賞(鑑賞機会・鑑賞支援)
- 創造(創造環境・支援方法)
- 発表(発表したい・開催したい・依頼された)
- 交流・連携(ネットワークづくりなど)
- 調査研究・保存(作品の保存に関する事など)
- 権利保護(出展依頼したい・された、二次利用・商品化、販売委託・寄贈、作品の取扱)
- 人材育成(研究等の情報、講師についてなど)
- 情報発信(取材、広報、見学)
- その他



相談支援事例

CASE

01

相談者 / 障がい福祉関係者

相談種別 / 創造(創造環境)

相談内容

事業所のレクリエーションとして、編み物や写真などの創作活動を行ってきた。今度は、利用者の方に鉛筆デッサンに挑戦してもらいたい。講師を紹介してもらえないか?



活動の様子

支援センターの事業に関わりのある講師に相談し、ご縁が繋がった方をご紹介します。

CASE

02

相談者 / 障がい当事者

相談種別 / 創造(支援方法)

相談内容

スマホで撮った写真を印刷したいが、方法が分からない。手伝ってもらえないか?



印刷して額に入れた写真

スマホプリントが対応できる写真店へ付き添い、お店の人の説明を受けながら、専用のタッチパネルを使い印刷を注文しました。「展示する場合にはどんな額が良いか」と質問を受け、気軽に購入できるお店として100円ショップへ行き、写真に合う額と一緒に考えました。(購入費用は相談者負担)

CASE

03

相談者 / 文化団体(美術展)

相談種別 / 発表(開催したい)

相談内容

自分達が住む地域の作家の絵画展を開催するにあたり、障がいのある作家にも出展して貰い、障がいの有無に関係なく作品発表できる場としたい。



「由布市在住作家絵画展」会場

対象地域在住の作家を紹介し、5名の参加が実現しました。

相談支援事例

相談者 / その他(銀行)

相談種別 / 発表(開催したい)

CASE
04



大分銀行 太陽の家支店「つばきラボ」展示風景

支店のロビーで作品展をしてくれる事業所等を探している。支店の周辺で暮らす障がいのある方に対して、作品発表の機会を提供したい。

相談内容

対象地域の事業所や支援学校を紹介し、これまでに4組の参加が実現しました。

CASE
05

相談者 / 自治体

相談種別 / 二次利用

相談内容

障がいのある作家の作品を使って、イベントのチラシ・ポスターを制作したい。作家候補を提案してもらえないか?



「ともに学び、生きる 共生社会コンファレンス」チラシ

要望に合わせて作家候補を紹介し、決定した作家に依頼していただきました。

CASE
06

相談者 / その他(製靴店)

相談種別 / その他

相談内容

オーダーシューズを納品するための靴袋を不要布で製作したい。縫製を依頼できる事業所はないか?



山村製靴店×夢・ひこうせん による靴袋

求められる縫製技術を持った事業所を紹介し、「さをり織り」を組み合わせたオリジナル靴袋が完成しました。

2 創造機会の提供

オープンアトリエ in コトブキヤ駅南

障がいのある人もない人も、気軽に芸術文化活動を楽しむ場として、月1回コトブキヤ駅南店の中で、創作活動の場を用意。画材も色々な種類を揃え、参加者が興味のあるものにチャレンジできる環境を整え、1回2時間の活動を行いました。

活動の中では、参加者同士の交流も生まれ、他者の作品に刺激を受けながら、自分の表現を追求する姿も多く見られました。

6月~2月 8回開催

会場 / コトブキヤ駅南店

講師 創作活動アドバイザー
谷口 裕子 / トマリアサミ



わたしのパレット展

「オープンアトリエ in コトブキヤ駅南」の参加者による作品の展示会を、大分銀行宗麟館で3月に実施。コトブキヤ駅南で活動する中で生まれた作品を中心に、1人1点ずつ作品を発表しました。



アウトリーチ

福祉施設や特別支援学校などに、絵画・造形・音楽・身体表現などの専門講師を派遣し、アート活動の機会を提供しています。今年度は12カ所でアウトリーチを実施し、多くの方と一緒に活動することができました。

身体表現×音楽×アート

7月15日(金)

団体名 / 大分大学教育学部附属特別支援学校

講師 アーティスト 音楽講師
トマリアサミ / 宗野 和枝



学校感想

自分のやりたい活動を選択したり、自分から新たな表現活動を生み出したりするなど、多くの生徒が積極的に活動できました。また最初は消極的だった生徒が活動の中心に加わったり、友だちの様子を見て楽しんだりして、自由な活動の中で自己表現をする姿が多く見られました。

グルーガンでランプシェード作り

9月24日(土)

団体名 / 子ども発達支援センター 一休さん

講師 大分大学教育学部教授
廣瀬 剛



施設感想

珍しい道具を使うので火傷を気にする子どももいましたが、全員長時間集中して楽しめました。似たような画材を使って、参加した子を中心に、他の子にも広げていきたいと思います。

なんでもモンスター

10月23日(日)

団体名 / たのしいproject

講師 イラストレーター・陶芸家
中野 伸哉



施設感想

楽しいあとニコニコしながら描いていた参加者が印象的でした。初めは悩んでいましたが、自由に描いているお友達を見てだんだんと活発に描けるようになり、手が汚れても気にせず夢中になっていました。沢山の画材を思い切り使えるのが楽しそうで、貴重な体験となりました。

不思議な形の彫刻を作ろう!

12月17日(土)

団体名 / ややま園

講師 大分大学教育学部講師
村上 佑介



施設感想

久しぶりのイベントということもあり、皆さんかなり期待している様子でした。人数の多さや障がいの程度にかなり差がありましたが、大半の利用者が初めての体験で楽しみながら活動できていました。

楽器を鳴らして演奏しよう

12月22日(木)

団体名 / 秀溪園

講師 音楽家
片岡 祐介



施設感想

みんな最初は控えめだったけれど、だんだん慣れてきて、楽しく元気に参加できたのがとても良かったです。いつもと違う利用者さんの一面が見られました。

不思議な形の彫刻を作ろう!

12月26日(月) 団体名 / みつばち

講師 大分大学教育学部講師
村上 佑介



施設感想

「難しいかな」「できるかな」という不安も持ちつつ当日を迎えましたが、講師の姿が外に見えると、参加者全員が玄関まで出迎えていて、ワクワクが出ていたと思います。終わったあとは「不安だったけど楽しかった」と感想を伝えてくれました。

楽器を作って参加型音楽の時間

1月28日(土) 団体名 / 生活介護チボリーノ

講師 村田 千尋 / Uta / 岩切 勇磨



施設感想

音楽は様々な人全てを包み込み、その場に集う人々を一つにする包容力があると体験できた。

改めて音楽のよさ、皆で曲を奏でる一体感を感じた。

音楽活動

1月31日(火) 団体名 / きりかぶ

講師 村田 千尋 / Uta / 古山 圭二



施設感想

充実した時間を過ごさせてもらいました。

今まで生の音楽に触れていない利用者さんが多かったので、今回の体験を与えていただこうと思います。

身体表現

2月9日(木) 団体名 / ほろんの郷

講師 大分大学名誉教授
麻生 和江



施設感想

楽しかった。踊りが面白かった。

リズム体操や、全体で行うレクリエーションのよい参考になりました。

身体表現 2月17日(金)

団体名 / 暁雲福祉会 八風園

講師 ダンサー
緒方 祐香 / 野中 香織



施設感想

はじめは緊張したけれど、講師の先生と一緒にいろいろなポーズを決めて、自由に踊ったりできたのがとても楽しかったです。また参加してみたいです。

オープンアトリエ 地域開催

障がいのある人もない人も、子どもも大人も、色々な人が地域で芸術文化活動を楽しむ場を作ることを目的に、各地でワークショップを実施。アート、ダンス、音楽と様々な内容のワークショップを実施し、参加者と一緒に楽しく活動を行いました。

オープンアトリエ in 豊後大野

会場 / エイトピアおおの

オープンアトリエ in ひた

会場 / パトリア日田

ネンド
ワークショップ

夏フィギュア作り

8月7日(日)

講師 陶器造形作家
中野マーク周作

昆虫・祭り・花・金魚・麦わら帽子などマイガチャボンしたらカプセルから出てきそうな、夏の思い出をテーマに、粘土で作品を作りました。



参加者の感想

沢山作れて楽しかったです。

キツネを作っていたとき、目をどうしようか迷っていたら、先生が目を作ってくれたのが嬉しかったです。

アート
ワークショップ

よく見て触って、お気に入りフレームづくり

8月17日(水)

講師 アーティスト
トマリアサミ

ボンボン、ふわふわ、くしゅくしゅ。いろんな素材をまずは触って観察し、その後お気に入りを選び、自分だけのアートフレームを作りました。



参加者の感想

いろんな感触・色の素材を触って、自由に遊んで作るということがこんなに楽しいのかと、子どもに戻ったような気持ちでつくりました。

また休みの日に、家でもしたいです。

ダンス
ワークショップ

あう!しる!おどる!ダンスにひたる!

10月30日(日)

講師 ダンサー
緒方 祐香 / 野中 香織

ダンスなんて踊れないよという人も、人見知りの恥ずかしがり屋さんも、みんなで不思議なダンスの世界に浸り、知らない人でも踊ることでお互いを知るキッカケとなりました。



参加者の感想

気持ちよく動けて、とても楽しかったです。

下の子は人見知りしがげしく、お姉ちゃんに言われてはば強引に来た感じですが、先生のフレンドリーさもあり、とても楽しかったです。

よく見て触って、お気に入りフレームづくり

8月6日(土)

講師 アーティスト
トマリアサミ

ボンボン、ふわふわ、くしゅくしゅ。いろんな素材をまずは触って観察し、その後お気に入りを選び、自分だけのアートフレームを作りました。



参加者の感想

アートは難しいものと思っていたけど簡単にでき、ひもや銀紙で色あざやかにすることが楽しかった。

綿の触り心地が1番気に入りました。

絵手紙
ワークショップ

楽しい絵手紙

9月10日(土)

講師 絵手紙講師
原野 彰子

季節のお花や野菜などを墨と顔彩絵の具で描く絵手紙。心を込めて描けばどなたにでも描けます。参加者がそれぞれに大切な人を思いながら、絵手紙を描きました。



参加者の感想

とっても楽しく、癒されました。家でもやってみたいです。

絵が苦手なのですが、にじんだ色にいやされたし、先生が優しく教えてくれて楽しめました。

ダンス
ワークショップ

カラダは天才! みんながスター のダンスショー!!

10月1日(土)

講師 ダンサー・振付家
北村 成美

ステージを探検して遊びながら、あなたにしか出来ないダンスを発見!みんなが主役の舞台を作りました。



参加者の感想

気を感じたり、身体の美しさとはどういうものなのかを改めて感じた。

サポートする必要がある人たちは大丈夫かな?と思いましたが、そんな必要はなく、ダンスって誰でもできる楽しいなと思いました。

オープンアトリエ in さいき

会場 / 旧三余館

美術
ワークショップ

きらきらランプシェード をつくろう!

8月20日(土)

講師 大分大学教育学部教授
廣瀬 剛

接着材のグルーガンでランプシェードを作りました。完成したランプシェードにLEDろうそくを入れたら、幻想的な世界が教室に広がりました。



色がたくさんあり、何色を使おうかと迷えるので楽しかったです。

同じ学校の子と知り合いになれてうれしかった。作品が思いがけないほど良くできて楽しかった。

音楽
ワークショップ

音であそぼう!つながろう!

9月4日(日)

講師 音楽療法士
木村 八重子 / 音楽療法士
岩本 睦恵

好きな楽器を自由に鳴らして遊びます。みんなで奏でる即興音楽でコミュニケーションを楽しみました。



初めての参加で、最初とはまどっていましたが、終わるころには楽しく参加できてよかったと思いました。

正解がない所がよくてやりやすかった。

ダンス
ワークショップ

カラダは天才!だれでも ダンサー!!

10月2日(日)

講師 ダンサー・振付家
北村 成美

自分の身体に宿る不思議な動きを見つけ出し遊んでみました。ラララと心が踊りだす瞬間がいくつもありました。



今まで体験したことのないワークショップでした。またあれば参加したいです。

びっくりするくらいに個性的で、おどりがやすかった。

美術
ワークショップ

コマ撮りアニメーション をつくろう!

12月4日(日)

講師 大分大学教育学部教授
廣瀬 剛

iPadのアプリを使って自作のアニメーション作りに挑戦しました。描いた絵や立体物を少しずつ動かしながら撮影して、再生してアニメーションを完成させました。



考えて作れる…。材料がたくさんあったので選ぶのが楽しかったです。

自分で時間をかけて作ったので、とても疲れたけど、良いものが出て嬉しかったです。

3 発表機会の提供

おおいた障がい者芸術文化支援センター企画展 vol.4

Junction art (ジャンクションアート)

県内外において魅力的な芸術文化活動に取り組む個人や施設をピックアップして紹介する展覧会です。4回目を迎える今回は展示テーマを「Junction art (ジャンクションアート) (=交流が生まれるアート)」とし、大分県内在住の障がいのある人のアート作品と、佐賀県基山町の障害福祉サービス事業所「PICFA(ピクファ)」の取り組みや作品を展示しました。会期中はPICFA施設長の原田啓之氏によるトークや、会場を巡りながらスタッフや出展者が作品の見どころを紹介するギャラリートークなどを行い、ミュージアムショップでは関連施設や作家のグッズ、作品を販売しました。

展覧会テーマ

Junction art (ジャンクションアート)

「Junction art」は、「交流」や「交差」を意味する「Junction」と、芸術=artを組み合わせた造語です。私たちの日常はさまざまな「Junction」に溢れています。人との出会いや、自分をとりまく環境との関わり、世の中の出来事との接点など…。そして、そんな新しい交流は、次への一歩となる新しいエネルギーを生み出します。本展覧会をひとつの「Junction(出会いの場)」として、障がいの有無をこえてさまざまな人や表現が交流していく。そんな願いを込めています。



◆ 会期・会場

11月9日(水)~20日(日)

会場 / 大分県立美術館1階
展示室A

観覧料 / 無料

協力 / 障害福祉サービス事業所PICFA
(医療法人清明会)

◆ 来場者・出展者・出品点数

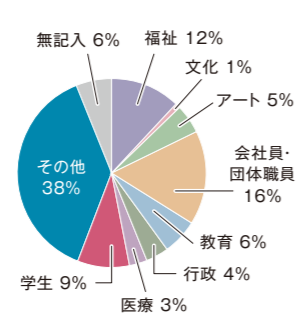
来場者 / 3,130人

出展者 / PICFA20人、
大分22組

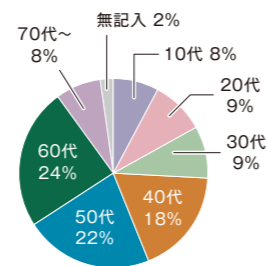
出品点数 / PICFA187点、
大分161点

◆ 来場者アンケート集計 回答数 / 450件 回答率 / 14.4%

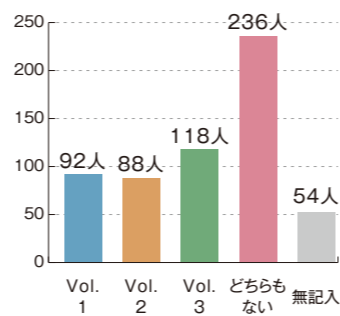
職業・所属



年齢



過去の企画展への来場



来場者の感想

もっと全国の施設を紹介して欲しいです。

一人ひとり違った個性のある作品にとっても感動しました。

感性に「障がい」などないことを実感。

作品を見ているとどんな人が描いたのだろうと作者が気になりました。

私も障がいを持っているが、作品を見せる場がないので、もっと発表の場を作って欲しい。

佐賀 PICFA

アート活動に取り組む先進的な福祉施設として、佐賀県基山町の「PICFA」をピックアップしました。活躍の場を地域から全国まで広げ、さまざまな人や業界と協働を続けるPICFAの作品と活動をご紹介します。

YouTube
で視聴
できます



加田有紀

ピクファ PICFA (医療法人清明会 障害福祉サービス事業所)

2017年7月に医療法人清明会 きやま鹿毛医院内に障害福祉サービス事業所としてオープン。施設形態は、就労継続支援B型で施設内にて絵を描くことやデザイン、アート作品の創作活動を「お仕事」として位置付け活動中。現在、メンバー(利用者)は20名で活動し、創作活動が「アート」だけではなく「人生」にも広がるよう活動の幅を広げている。

企業とのタイアップなどを積極的に行い、キャナルシティOPAのリニューアルオープンに向けての巨大絵画制作・納品や東京のアパレルブランドや化粧品会社とのコラボ、行政機関などへ挿絵提供など、アートやデザイン、生活雑貨の商品開発、原画販売など、グローバルに活動中。

出展

飯干真由
笠原鉄平
加田有紀

包行想
北村彰吾
木村信隆

篠崎桜子
杉野はるか
鈴木靖葉

園田瑞樹
トシ嘉鈴カレン
中川原あすか

西依孝
東佐智子
東島ゆきの

樋口裕乃介
藤瀬翔子
本田雅啓

安永憲征
楠原正隆



会場の様子



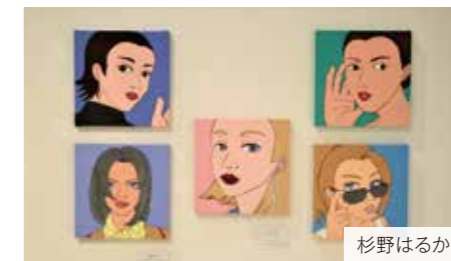
北村彰吾



包行想



樋口裕乃介



杉野はるか



笠原鉄平



本田雅啓



ライブペイント作品



原田施設長のトーク



I

イロとカタチ
ココロオドル



甲斐瞳

鮮やかな色づかいや個性的な形。綿密な線の集合体。オリジナリティ溢れるさまざまな作品を集めました。

- 岩崎文展
- 甲斐瞳
- 後藤春枝
- 中野マーク周作
- 中野道人
- 藤田望人
- 松井瑛美



藤田望人

II

マイウェイ
私がみる景色



秦亮太郎

お気に入りの道路や路線を地図にする人、日常で見つけた美しい一瞬を絵に残す人。大分の景色や日々の風景を題材にした作品を紹介しました。

- 阿部和隆
- 秦亮太郎
- 名古光男
- 森口美幸
- 佐藤龍男
- 中島眞一
- 原野彰子



初日に開催した内覧会

III

糸から始まる表現

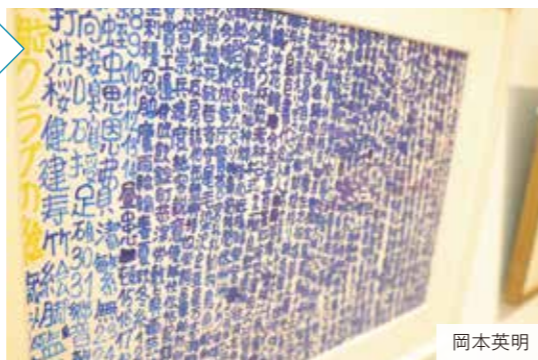


あとリエ湯輪夢

織りや縫いの手法で作品を作る個人や福祉事業所を紹介しました。
浅野凧砂 あとリエ湯輪夢 下隈祐司 HARIKO

IV

関わりから生まれたアート



岡本英明

支援活動をきっかけに生まれた作品のほか、周囲の人々や物事との関わりを書き留めた、「Junction」な表現を展示しました。



安部侑朔

- 赤嶺勝郎
- 安部侑朔
- 岡本英明
- 佐藤省吾

大倉 薫

5月3日(火・祝)~
6月30日(木)

大倉さんのオリジナル漫画「メロディポップストリ」は、個性豊かで愉快的な音楽使いたちが暮らす「メロディランド」の物語。140ページに及ぶ大作漫画の一部や四コマ漫画、カレンダーイラスト等を展示しました。



伊藤 瑞穂、岩川 日向子

7月2日(土)~
8月31日(水)

生活介護事業所「なごみ工房」で日々アート活動に取り組む2人は、人との交流が大好きなのが共通点。画面には自分や家族、施設職員、馴染みのある場所など、様々な登場人物や背景が描かれています。



HARIKO

9月2日(金)~
10月31日(月)

「糸で絵を描く」を創作のコンセプトに、服や布をキャンパスに見立て、頭に浮かんだイメージを一針一針、刺繍しています。視覚に障がいがあり、弱視の方でも縫い物ができるように鮮やかな色の糸を使っているのが特徴です。



名古 光男

11月2日(水)~ 12月25日(日)

20代後半に独学で絵を始め、現在まで数十年ものあいだ描き続けてきました。1枚を完成させるのに数週間、時には3年の歳月をかけるなどして、納得のいく表現に向けて絵筆を進めています。



中島 眞一

3月2日(木)~
4月30日(日)

「切り絵の細かく難しいところにこそ面白さや楽しさが溢れている」と語る中島さん。自作のアートナイフを口にくわえて、仕事終わりや休日にコツコツと制作を進めています。大分の風景や親しい人のスナップショットなどが題材です。



創作演劇&ダンスワークショップ
in OPAM

「ころころ、ころころ、ころがって」

障がいの有無にかかわらず、共に表現する場を提供し、障がいのある人が身近な地域で活動することのできる環境を整えることを目的に開催しました。4回のワークショップによる創作、短い時間で準備をしての本番でしたが、それぞれが自分の思う感情をダンスで表現していました。

あらすじ

天気がころころ変わるように、わたしのころころも、ころころ変わる。よろこび、いかり、かなしみ、たのしみ。ころころ変わるから、わたしは毎日豊かに過ごせる。ときどきつらい時もあるけれど、だから今が愛おしい…。演劇とダンス・ピアノ演奏で紡ぐ、1つの物語。



ワークショップ

演劇(表現)の入口

～自由に表現してみよう～

11月10日(木)
18:00～19:30

演劇(表現)の内部

～役割を演じよう～

11月11日(金)
18:00～19:30

演劇(表現)の深み

～みんなで創ろう～

11月12日(土)
13:00～14:30

演劇(表現)の出口

～個性を解放～

11月13日(日)
10:30～12:00 リハーサル
13:00～13:30 本番



◆ 会期・会場

11月13日(日) 会場 / 大分県立美術館 (OPAM) アトリウム

講師 作・演出 市村 啓二 / 振付・出演 真吉

演奏 ピアノ 古賀 小由実 / カホン 高橋 宏太郎

YouTube
で視聴
できます



お客様の感想

よかったです。"心"が伝わってきました。

皆さんが自由に個性のあるパフォーマンスをしていたのが印象的でした。

総ガラスの建物が、まるで自然の中で「見る人、踊る人」が一体となったようで、素晴らしかったです。

日々、心の移りかわる様子がそれぞれに表されていて、最後のお花のシーンに感動しました。

広い場所に音楽が響きわたり、激しく、又優しいおどりとマッチしてとても感動しました。

命を大切に、毎日の日常生活を大切に。と思いました。

参加者の感想

ライブの音とテーマにあわせた身体表現で誰にとっても無理なく取り組めた。

みんなで照れることもなく、身体いっぱい表現ができて楽しかった!

伸び伸びと表現ができ、充実感に満ちた笑顔が素晴らしかった。

4 鑑賞機会の提供

鑑賞支援つき日本舞踊
長唄「鶯宿梅」

障がいのある人もない人も、同じ様に劇場という非日常の中で舞台を楽しめるよう、特性にあった鑑賞支援を用意し、舞台運営を行いました。



あらすじ

春になり、鶯(うぐいす)を待ちわびる梅の木を、いたずらカラスがだまそうとしたところ…。

10月16日(日)

会場 / iichiko音の泉ホール

出演

舞踊

藝〇座(ゲイマルザ)

長唄

東音会(トウオンカイ)

囃子

チリカラ伍(チリカラファイブ)

演目

長唄「鶯宿梅」

長唄三味線・邦楽囃子

ワークショップ

日本舞踊少品集

〈百花繚乱～花と妖精～〉

鑑賞支援

字幕・手話通訳・要約筆記・補助犬用簡易トイレ・場内明るめ・音量小さめ・特別鑑賞室・点字プログラム・拡大文字プログラム・座席補助シート・イヤーマフ・ヒアリングループ席・車椅子席・Ontenna(オンテナ)



5 人材育成

障がいのある人の芸術表現を活かした活動を企画・運営する人材のスキルアップを図ることを目的に、芸術文化や福祉、教育等の分野に携わる人を主な対象にセミナーを開催しました。

障がいのある人の創作活動支援を考えるセミナー1

私の考えるバトンの受け取りと渡すタイミング-バトンとは?-



アート活動を通して知的障がいや自閉症の人と関わってきた中野伸哉氏を講師に迎えました。前半の講話では、特産品のプロデュースで生まれた「弱点を強みに変えるアイデア」についてや、障がいのあるお子さんを持ったお母さんからの相談の話など、様々なエピソードを交えて、私たちが「障がい」と呼んでいるものをアートやデザインの視点でどのように価値のあるものに転換できるか、お話をいただきました。後半はミニワークショップとして参加者の方々にも実際に創作活動してもらい、感じたこと考えたことを共有する時間も設けました。

9月25日(日) 13:30~16:00

会場 / 大分県立美術館 2階 研修室

参加者 / 26名

講師
イラストレーター・陶芸家
中野 伸哉



障がいのある人の創作活動支援を考えるセミナー

私の考える バトンの受け取りと渡すタイミング ——バトンとは?——

受講料 無料 2022.9.25 [日] 13:30~16:00 (途中休憩あり)
大分県立美術館 2階 研修室 内 大分市赤町2番1号

内容 前半:講話「私の考える、バトンの受け取りと渡すタイミング-バトンとは?-(質疑応答あり)」
後半:創作ワークショップ

定員 25名 参加対象 当セミナーに関心のある方など
申込締切 9月20日[火] 定員に達し次第、締め切ります

What is a baton? /

障がいのある人が創作活動をする時、そばにいる施設職員や家族、支援に携わる人たちは、どのような配慮を心がけて関わっていけば、本人が創作を楽しむことができ、生き生きとした表現が生まれるのでしょうか。このセミナーでは、アート活動を通して知的障がいや自閉症のある人と関わってきた中野伸哉氏を講師に迎え、障がい特性をアートの視点で捉えなおし、創作活動支援のあり方について考えを深めたいと思います。

講師プロフィール
中野伸哉 (イラストレーター・陶芸家)
2019年度芸術文化庁「障がい者芸術文化支援事業」実施要領に基づき、大分県立美術館の「障がい者芸術文化支援センター」を拠点に創作活動を行いながら、障がい者の芸術文化の向上やプロデュースの仕事を担当している。障がい者の芸術文化の向上やプロデュースの仕事を担当している。障がい者の芸術文化の向上やプロデュースの仕事を担当している。

Seminar
Workshop

文化芸術庁 創・つくりたい
美ら島おきな文化祭2022
美ら島おきな文化祭2022
美ら島おきな文化祭2022
美ら島おきな文化祭2022

参加者の感想



ものみかた、発想、とらえ方など、とても勉強になりました。

私の対象は障がい者ではありませんが、誰に対しても共通している考え方だと思いました。

「教えるというより、自分で気づく仕組みをつくる」。印象に残った言葉です。

知っているつもりでいても、なかなかできない「言わない」という事。「何の為にそれを言うか?」を意識しておきたいです。

障がいのある人の創作活動支援を考えるセミナー2

たんぽぽの家による音と踊りのワークショップ - ガムランの響きを楽しみながら -



奈良市にある「たんぽぽの家」は、障がいのある人とともに、絵画や造形のほか、音楽や踊りを使った表現についても様々な取り組みを行っています。たんぽぽの家のパフォーマンスアーツに約20年の関わりを持ち続けてきた舞踊家・佐久間新さんと、音楽家として活動を続けながらたんぽぽの家で働くスタッフの大井卓也さんを講師に迎えてワークショップを開催しました。

ガムラン楽器や打楽器が奏でる音とリズムの中で体を動かす、音と踊りのグループに分かれて即興セッションをするなどしました。県内の福祉施設で美術アドバイザーとしても活動している美術家・木村秀和さんにも参加して頂き、木村さん自作の竹楽器も加わりました。年齢や障がいの有無関係なく集まった参加者は、言葉を用いず、体から湧き上がってくる自由な表現活動をコミュニケーション手段にかえ、このひとときの中で共に会話を楽しんでいました。

3月4日(土) 13:00~15:30

会場 / 大分県立芸術文化短期大学 音楽ホール

参加者 / 35名

講師
舞踊家 佐久間 新 / 大井 卓也
一般財団法人たんぽぽの家スタッフ・
音楽家・ガムラン奏者

〈演奏サポート〉
高橋 宏太郎(大分県立芸術文化短期大学 専攻科音楽専攻)



たんぽぽの家による音と踊りのワークショップ - ガムランの響きを楽しみながら -

受講料 無料

2023年3月4日[土] 13:00~15:30 (途中休憩あり)

会場: 大分県立芸術文化短期大学 音楽ホール(大分市上野野東1-11)

対象: 障がいのある人のアート活動に関わる支援者
または 内容に関心のある方など

定員: 25名

申込締切: 3月2日[木] 定員に達し次第締切



講師プロフィール
佐久間 新 (舞踊家)
幼少の頃、歌舞伎の音楽を聴き、音楽に興味を持ち、研究家で舞踊家として活動。大分県立芸術文化短期大学で音楽を学び、現在は一般財団法人たんぽぽの家で舞踊家として活動している。

講師プロフィール
大井 卓也 (音楽家)
一般財団法人たんぽぽの家スタッフ・音楽家。大分県立芸術文化短期大学で音楽を学び、現在は一般財団法人たんぽぽの家で音楽家として活動している。

主催: おおいた障がい者芸術文化支援センター(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団

参加者の感想

ダンスと音楽で全員がひとつになり、とても有意義な時間でした。

初めて会った人と体で会話できた。通じ合ったときがとてもうれしい。

みんなで作り上げる、みんなが尊重されるすてきな時間でした。

久しぶりにコロナの中発散できました。

先生の踊りに誘い込まれました。楽しかったです。

(講師の)言葉が良く分かった。

6 交流事業

アートを感じる ワークショップ

アートを通して人と人の出会いの場をつくることで、障がいの有無にとらわれない「共にいきる」地域社会の構築を目指し、大分県内で活動している障がいのある作家が、県内の小学校を訪問してワークショップを行いました。障がいのある作家が講師となることで、子どもたちや学校関係者が多様性について考える機会としています。

絵手紙を描いて みよう!

講師 絵手紙講師 原野 彰子

原野彰子さんに講師をしていただく際には、活動の前に必ず子ども達に向けて短い講話をして貰います。これまでの人生の歩みや、絵手紙と出会ったエピソードなど、「障がいとともに生きること」を子ども達が考えるきっかけとしています。絵手紙活動では、原野さんが用

意した旬の野菜や季節の花々からモチーフを選びました。「手紙を送る相手を想像しながら描いてみよう」「へたでいい、へたがいい」という原野さんの声掛けを受けながら、子どもたちはのびのびと筆を動かして描き、沢山のあたたかい絵手紙が生まれました。

佐伯市立八幡小学校



11月11日(金) 5・6時間目

参加者 / 6年生20名



子ども達の感想

ほめてもらえて嬉しかった。

筆の持ち方が難しかった。

先生方の感想

児童たちが、生き生きと活動できました。

「苦手だ…」と言っていた子どもも、素敵な作品ができて嬉しそうでした。

佐伯市立米水津小学校



12月1日(木) 5・6時間目

参加者 / 3年生9名、4年生10名



子ども達の感想

初めてだったけど楽しかった。

絵手紙を渡す人に喜んでもらうと思いがちながら描いた。

先生方の感想

冒頭の原野さんのお話はとても心に響く内容でした。

素材が沢山あり創作意欲が高まっていたいました。

7 情報収集・情報発信

調査・発掘



障がいのある人の創作活動の実態把握や新たな表現を発掘するために、芸術分野の専門家に同行を依頼し、施設や個人宅を訪問して情報収集を行いました。今年度は、5件の調査を行いました。施設職員や家族が作品の保存や整理に協力している所もありました。支援センターとしては様々な表現活動を情報収集し、今後の活動に役立てたいと考えています。

◆ 令和4年度調査実績 調査先・市町村・分野

調査先	市町村	分野
福祉事業所	別府市	絵画
福祉事業所	大分市	イラストレーション
個人宅	別府市	絵画
個人宅	大分市	絵画
個人宅	大分市	絵画

調査員

大分大学名誉教授
久間 清喜 氏

大分大学
教育学部教授
廣瀬 剛 氏

画家・
あるくアート代表
廣岡 茂樹 氏

調査員の感想

Aさんは鮮やかに色分けされた作品が印象的です。余白の部分をうめつくす細かい筆のタッチが手の動きをダイレクトに伝えて、作者の生きいきとした心の動きを感じさせます。同じような構図の中にも表現方法には多様なバリエーションがあり、制作時の気分や心の変化を感じます。

Cさんは1点仕上げるのに時間のかかる方法で制作し続けているため、本人の制作ペースを尊重する支援が必要かと思われます。絵を描き始めてから年月が浅いこともあり、今後この技法を続けていくことで、よりオリジナリティを感じさせる表現に向かうことが期待されます。

Bさんは独学で油絵を制作し続け、発表もされているという意欲が素晴らしいです。自分が表現したいことに素直であること、絵具の厚塗りなど思い切りが良い所が魅力です。テーマ次第で、違う素材にもチャレンジできる気がします。

Dさんの作品は、親しみやすいキャッチーな絵柄から、広告のイラスト、パンフレットや雑誌などの出版物に使用される挿絵など、印刷物に適していると考えます。クライアントからの要望にも応えられるスキルも持ち合わせており、作品数も多いことから、ネットでの作品公開や印刷したポर्टフォリオなどを利用して行政機関や企業に見せる機会を多くすることができれば、仕事に繋がる可能性が高いと思われます。

情報発信

おおいた障がい者芸術文化支援センターのホームページ・Facebook等のSNSを活用し、県内の障がいのあるアーティストや県内外のイベント情報の発信を行い、センター事業やアーティストの紹介も行っています。

センターで行われた事業が新聞やテレビなどでも取り上げられ、県民の方にも知ってもらえる機会となりました。企画展やダンスの発表などはYouTubeでも発信を行いました。事業チラシを県内の各地域の施設に配布するなどし、障がいのない方もセンターの事業に参加をされ、障がいのある方とない方の交流の場を作ることに繋がりました。また、全国の公募展の情報を発信することにより、公募展に積極的に応募する方も多くなり、入賞者も出るなどしました。



◆ 情報発信件数 (2月末現在)

メディア掲載

(センター事業関係)

新聞	8
テレビ (ケーブルTV含む)	2
ラジオ	4
雑誌等	2

メディア掲載

(アーティスト、イベント紹介等関係)

新聞	48
テレビ (ケーブルTV含む)	2
ラジオ	0
雑誌等	0

公募展情報発信

HP/facebook	17
-------------	----

SNS等発信

	HP	SNS	YouTube
センター事業関連	11	18	1
イベント広報等	68	72	0

ホームページ

<http://artbrut-oita.com/>



Facebook

おおいた障がい者
芸術文化支援センター



Instagram

artbrut.oita



YouTube

おおいた障がい者
芸術文化支援センター



発信媒体

おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029

大分県大分市高砂町2番33号

iiichiko総合文化センター4階

(公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団)

Tel.097-533-4505(平日9:00~17:00)

Fax.097-533-4013

E-mail artbrut-oita@emo.or.jp

<http://artbrut-oita.com/>

Facebook ▶ おおいた障がい者芸術文化支援センター

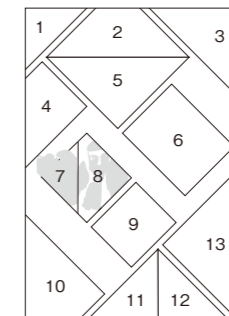
Instagram ▶ @artbrut.oita

◎ JR大分駅から徒歩で約10分

◎ 大分ICから車で約7分

◎ 駐車場あり(有料)

[表紙]



- 1 空叶論「グリーン・ヘアー・ドッグ」
- 2 「ころころ、ころがって」公演
- 3 アウトリーチ(大分大学教育学部附属特別支援学校)
- 4 オープンアトリエ in さいき
「カラダは天才!だれでもダンサー!!」
- 5 後藤春枝「花」
- 6 PICFA笠原鉄平「無題」
- 7 原野彰子「みくじ鳩」
- 8 原野彰子「一文人形」
- 9 佐藤龍男「アイスクリームとケーキ」
- 10 中野マーク周作「鬼面」
- 11 オープンアトリエ in コトブキや駅南
- 12 佐藤省吾「省吾連」
- 13 PICFA安永恵征「安永人形」

[OITA ART SUPPORT ロゴ] ゆけむりふぉんと[MASAYO LINE FONT]

[企画・発行]

おおいた障がい者芸術文化支援センター
令和5年3月発行

おおいた障がい者芸術文化支援センターは大分県から委託を受け、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団が企画・運営しています。